

コード No. 21-S-006

提出日：2022年11月22日

令和3年度「HIV陽性シングルマザーの生計向上を通じたエイズ孤 児支援事業」報告書

特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS
藤原祐希

1. プログラムの目的

当会は、ケニアとウガンダで国際協力活動を行っています。わたしたちの支援する多くの子どもは「エイズ孤児」であり、エイズによって片親もしくは両親を失った18歳未満の子どもたちです。父親をエイズで失い、HIVに感染した母親と暮らすシングルマザー家庭のエイズ孤児が多くおり、家庭は困窮しがちです。ウガンダでの活動地では、そうした家庭の平均年収は約2万円に留まり、子どもの教育費を工面できません。その結果、子どもは初等教育を卒業できず、ライフスキルを獲得できず、自己肯定感が低くなっていることがこれまでの事業調査からわかってきました。

本プログラムは、HIV陽性シングルマザーたちがカフェ・ビジネスを通して、(1)安定した収入を確保し、(2)自己肯定感や事故効力感を得ること、さらに中期的には(3)シングルマザー家庭で育つエイズ孤児たちが就学を続け、進級・進学を実現することを目指したものです。また、副次的な成果として、支援によってカフェ・ビジネスのスキルを得て本事業を卒業したシングルマザーたちの姿が同じような境遇のシングルマザーたちの励みやロールモデルとなることも期待しています。

2. 主な活動内容・方法

[主な活動内容]

ウガンダのルウェロ県にて、HIV陽性シングルマザーに対して、カフェ・ビジネスの開業と継続に必要な研修と資機材の初期投資、伴走支援を行いました。現地パートナーが現場でのオペレーションを担い、各ステップを通じた伴奏支援とモニタリングを実施しています。

[対象者の概要]

対象者概要：HIV陽性のシングルマザーとその子ども

対象地：ウガンダ共和国ルウェロ県

対象者数：48名

対象世帯数：12世帯

[実施スケジュール]

2021年	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング研修の実施 ・菓子研修の実施 ・簡易店舗を開店するために必要な資機材の購入、受け渡し
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・3名×4拠点で簡易店舗での販売開始 ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを実施
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・実店舗への移行準備、候補となる店舗物件のリサーチ ・簡易店舗での営業を継続 ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続
2022年	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・実店舗と契約して開店準備 ・実店舗への移行準備、候補となる店舗物件のリサーチを継続 ・簡易店舗での営業を継続 ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・実店舗に移行して営業を開始 ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・実店舗で必要となる資機材の購入 ・実店舗での営業とパートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続 ・実店舗で必要となる資機材の受け渡し
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続 ・栄養研修、調理研修の実施
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナー団体による伴走支援と定期モニタリングを継続
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・フードコンペティション（各店舗が参加する料理自慢大会）の実施

3. 活動の実施経過

[研修の実施]

2021年9月にマーケティング研修、菓子研修を実施しました。菓子研修では、手洗いや髪を覆うなど衛生についてから学び、現地でおやつや朝食としてよく売れるドーナツ、クイニーケーキ、ハーフケーキ（揚げドーナツ）、バナナとキャッサバの揚げ餅の作り方を学びました。2022年7月には追加研修として、調理研修、栄養研修を行いました。



マーケティング研修の様子。



菓子研修の様子。

[簡易店舗での営業]

簡易店舗での営業は、パラソル・プラスチック製のテーブルとイスで、道端での営業です。扱う菓子や食べ物の種類を地域のニーズによって変えながら営業が行われました。



簡易店舗の様子。テーブルでは客が食事をしている。



研修で習ったバナナとキャッサバの揚げ餅を作る。

[現地パートナー団体による伴走支援とモニタリング]

現地のパートナー団体スタッフは、事業開始時から随時伴走支援と定期的なモニタリングを行いました。電話での相談のほか、月に数回各店舗を訪ね、店舗ごとに扱う食べ物の内容の相談、衛生状態の確認、会計の補習、調理方法の確認等、受益者が店舗経営をするためのサポートをこまやかに行いました。



会計書類の確認を行うスタッフ (右) と受益者 (左)。



体調を崩した受益者の家に行き、相談に乗るスタッフ (右)。

[実店舗での営業]

道端から実店舗に場所を移しての営業では、電気が使えるようになるため、冷蔵庫を置き、ペットボトル飲料水やパイナップルジュースなどの販売も可能となりました。

実店舗でも、店舗箇所の顧客状況を鑑み、それぞれの店舗で販売するものは異なります。例えば小学校と中学校が近くにある店舗では、子どもたちのおやつがよく売れるため、菓子を多くし、若い労働者が多い地域の店舗ではしっかりとした食事をメインに出しています。



実店舗と受益者の様子。左に写っているのが冷蔵庫。



カフェで出している食事。牛肉のスープ、炊き込みご飯、落花生のソース、キャッサバ、ポシヨ、マトケ (緑の食用バナナを蒸したもの)

[料理自慢大会の実施]

2022年9月にはこれまでの研修やカフェ営業の集大成として、料理自慢大会が実施されました。それぞれの村のカフェチームが、衛生・味・見た目・量・会計などカフェ・ビジネスに必要な要素をどれだけ満たしながらプレゼンできるかという大会です。それぞれ料理のレシピを説明しながらプレゼンし、味見をし合い、学びを得ながら、大変盛り上がった大会となりました。



各村のチームがそれぞれ腕を振るった料理を持ち寄った。



優勝チームが発表された。

4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

申請時の達成目標の成果状況は以下です。

① HIV陽性シングルマザーたちがビジネススキルを身につける（会計・調理・接客・衛生）。

[成果]達成できた。予定されていた研修をすべて実施し、会計・調理・接客・衛生のスキルを身につけた。

② HIV陽性シングルマザーたちが安定した収入を確保する。

[成果]達成できた。収入によって生活必需品の購入ができ、子どもの病院・薬代、学費が確保できていると報告があった。

③ HIV陽性シングルマザーたちがカフェの収入によって貯蓄を確保する。

[成果]達成できた。HIV陽性シングルマザーたちはカフェの収入によって貯蓄を確保し、子どもの教育費や、生活必需品を購入するのに使用していると報告が上がっている。また、マクルビタ村のチームはグループ貯蓄も行っており、これまでに300,000シル（11,291円）の貯蓄に成功している。この金額は、追加の椅子の購入など、ビジネスを大きくするのに使う予定だという。

④ HIV陽性シングルマザーたちが自己肯定感や自己効力感を得る。またストレスレベル低下する。

[成果]達成できた。ビジネスパーソンであるという誇りを得、また接客業を通して交友関係が広がり、それによって自己肯定感が上がったというシングルマザーからの報告を受けている。

また、安定した収入源があることによりストレスレベルは低下している。

5. 今後の課題

本事業により、ビジネスをしたことのないシングルマザーたちがカフェ・ビジネスのオーナーとしての道を歩みなじめました。すでに売り上げによって、子どもの学期分の教育費を支払えたという報告も上がってきています。今後は、伴走支援と定期的なモニタリングが得られなくなっても、シングルマザーたちが継続してカフェ・ビジネスを運営していくことができるようになることが課題と考えます。2022年12月まで現地スタッフによる伴走支援を続け、完全な自立へ向けてきめ細やかなフォローアップを実施します。